



先日、ランドブレイン株式会社の古波蔵契さんの研究の一環として、センター事業団・但馬事業所を訪問し、週に一度行われている「つむぐり」活動に参加させていただいた。つむぐり活動とは、森のようちえんのことであり、幼児期の自然体験活動のことである。

この日は6組の親子が参加していた。スタッフは2名で、下の名前と呼ぶことになっており、保育士の「ゆきちゃん」と、もともと利用者であった「あいちゃん」について行った。普段活動している加陽水辺公園ではなく、この日は奈佐森林公園という場所での活動だった。そこには小さな川があり、蟹を捕まえたり、木の実を洗って泡だてたり、葉っぱを流して楽しむという遊びが展開された。また、石の形が蟹に似ているという話で盛り上がる場面や、ある母親の手の平の上で蟹が子蟹を産卵したので「蟹の助産師」と名付けられ盛り上がる場面があった。

自然というフィールドの中で、スタッフのお2人は、何かを教えるという関わり方ではなく、参加者が興味をもったものを一緒に興味をもって見るという関わり方をしていた。例えば名前の知らない虫がいた場合も「なんだろう」と答え、「本当に気になるようなら図鑑とかで自分で調べるよ」と後で教えてくれた。

所長である上村さんによると、スタッフは集合時間よりも早くきて、遊び場の点検を行っているという。週に1度はメンバーが集まって、活動の方針を決めるそうだ。

また、活動の中で、「ここは降りようか」と子どもに声をかけている場面もあり、何らかの基準に基づきリスク判断を行っていることもわかった。

午後はお2人と別れ、いつもつむぐり活動が行われる加陽水辺公園も案内してもらった。そこは、竹や木が茂る森の中の開かれた空間で、林業チームの「NextGreen但馬」によって整備されているという。倒れた木が平均台のようにになっている場所があり、その下は1メートルくらい落差があった。その帰りに加陽水辺公園交流館に立ち寄った。普段、つむぐり活動のメンバーが会議などを行う場所だという。そして、たまたまこの日も、先ほど別れたゆきちゃんとあいちゃんのお2人が活動後のミーティングをしていたので、「あの木の平均台から落ちたら危ないと心配になることはないですか」と思い切って聞いてみた。すると、「下に落ち葉などがありふかふかしている」という森ならではの条件があることや、むしろ「危険を知らないまま大人になったら危険じゃない？」と逆に問いかけられた。今回の訪問の中で一番印象に残ったことであった。



木の平均台